

大学院修了にあたり

大学院修了にあたり

歯周診断・再建学分野 小島 杏里

月日が経つのは早いもので最近入学したように感じますが、この原稿を書き卒業が迫っていると実感してきました。

振り返ると「なぜ大学院へ？」とこの4年間色々な方に聞かれました。私の出身大学は本学ではなく、生まれや育ちは群馬と東京で新潟には縁がありません。そんな自分が新潟大学で研修医になり、大学院へ進学したきっかけは、父と高校時代からの友人である本分野の吉江弘正教授にお願いし、大学5年の春休みに本学を見学する機会を頂いた事からでした。教育カリキュラムや設備の違いに驚かされ、病院案内をして下さった両角先生や当時大学院生の岩永先生にもお話を伺って、自分も歯周科の大学院へ進学したいという気持ちが強まり、研修施設と進学先を本学に決めました。

実際に大学院に進学し、初めての研究は戸惑いの連続でした。実験器具の使い方や論文の読み方などうまく吸収できず、自分の不器用さを再認識しましたが、指導医の小林先生や同じ研究班の先輩方、同期に助けをもらい、何とか今に至ります。

私の研究テーマですが、「慢性歯周炎および関節リウマチにおけるTNF- α 遺伝子プロモーター領域メチル化の解析」になります。歯周病は多くの全身疾患と関連していると報告されています

が、その中でも関節リウマチに注目して私の所属する研究班では様々な報告をしています。私は、慢性歯周炎と関節リウマチ、健常者の血液を採取し、DNAを抽出してメチル化している部位や状態、疾患でのメチル化部位の差などを解析し、その関連を調べる研究を行っていました。研究の結果ではTNF- α プロモーター領域のメチル化状態が日本人の関節リウマチや慢性歯周炎患者において独特な働きをする可能性があることが分かりました。

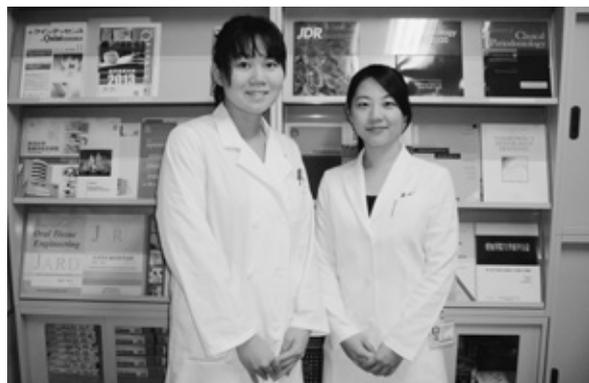
思うような結果が得られず苦勞したり、朝早い時間から先輩方に協力して頂き、ご迷惑をかけたりとこの4年間は色々なことがありました。でも、国内学会やロンドンでのEuro Perio 8での発表など、大学院ならではの貴重な体験もさせて頂きました。

大学を卒業して歯科医師になると様々な道があると思います。歯科医師になって4、5年経つと開業や、分院長になる人もいて焦るかもしれません。私自身も入学した頃は、大学の同期で大学院へ進学する人はほとんどおらず、不安がないとは言いきれませんでした。でも、自分は自分と信念を持ち1つのことを追求した結果、4年間で学位取得と歯周病学会認定医取得ができ、歯科医師として大きな武器を持ってました。この結果や経験は大学院に進学したからこそできた事であり、10年も学生だった自分を支え続けてくれた両親の存在も大きく、感謝しています。私は大学に残らず就職する道を選びましたが、今後も大学院で学んだことや経験を生かして精進していきたいです。

最後になりましたが、ご指導頂きました小林哲夫先生、吉江弘正教授ならびに共同研究者の方々にご場を借りて心より御礼申し上げます。



Euro Perio 8にて



歯周診断・再建学分野同期と（筆者 左）

大学院修了にあたり

顎顔面口腔外科学分野 新垣元基



早いもので大学院での4年間が終わろうとしています。これを機会に大学院での生活を振り返ってみたいと思います。

私は出身大学は九州歯科大学ですが、卒業後は地元の新潟に戻りたいと考えていました。そこで、研修は1年間新潟大学の歯科総合診療部で行い、大学院は顎顔面口腔外科学分野に進学することとしました。大学院1年目は口腔外科外来・病棟・麻酔科をローテーションで廻り、一般的な口腔外科処置、周術期管理、全身管理について指導して頂きました。大学院2年目からは研究ということで、自分としては漠然と癌に関する研究をやってみようと考えていました。その中で顎顔面放射線学分野の林孝文教授が私を受け入れて下さり、超音波を用いた舌癌の組織弾性の評価に関する研究をさせて頂くことになりました。正直なところ、研究を始める前までは自分にとって超音波検査自体があまりなじみのあるものではなく、実際の画像も全くわからなかったので、少し不安ではありました。

行った研究内容としては、組織の硬さを画像化することが可能である超音波エラストグラフィと呼ばれる、乳癌や甲状腺癌の診断ではよく使用されている手法を用いて、特殊なプローブを使って

得た手術前の舌癌の画像所見と切除された病変の病理組織像とを比較することにより、超音波エラストグラフィが癌の浸潤度の診断において有用であるかを評価するというものです。この研究においては、手術をする側である口腔外科の先生方や口腔病理の先生方からのご指導を頂く機会があり、口腔癌に関して画像診断の立場からだけではなく、広い視点で考えることができ、自分にとって大変貴重なものとなりました。また林教授からは研究に関することだけではなく、口腔癌の頸部リンパ節転移や唾液腺疾患等の超音波画像所見、実際に頸部リンパ節の超音波検査を行う際の手技についても教えて頂きました。特に手技については、普段あまり経験できないものなので、有意義なものになりました。そして、研究に関する学会発表も多く経験することができました。その中で最も印象に残っているのは、口腔腫瘍学会でのワークショップでの発表で、まだ大学院生であるにも関わらず、そのような機会を与えて頂き、本当に感謝しています。

顎顔面放射線学分野にいる間は、研究以外にもパノラマ、CT等の読影についても御指導頂き、実際に診断も数多くさせて頂きました。この経験は口腔外科のみならず、一般歯科診療をやっていく上でも大変貴重なものであり、今後これを活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、この場を借りて林孝文教授をはじめ、多くの御指導を頂いた顎顔面放射線学分野の先生ならびに研究にご協力頂きました先生方に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

大学院修了にあたり

口腔病理学分野 阿部達也

本学歯学部入学とともに新潟にやってきましたが、1年目に大雪による大停電に見舞われ、冬の気候の大変さに滅入った記憶があります。卒業後は臨床研修のため1年間新潟を離れていましたが、大学院進学のため、新潟に戻り、あっという間に4年間に過ぎてしまったように思い返されま

す。
私は、口腔病理学の大学院に所属し、日常の診断業務とともに口腔がんの研究を行っています。口腔病理の大学院への進学は歯学部ではかなり少数派な選択肢でしたが、学部学生のとくに受けた講義・実習で、病気を具体的にとらえられることに魅力を感じたのがきっかけでした。

病理のおもな業務の1つは顕微鏡を使って、採取された病変の病理組織学的診断をおこなうことですが、形態的診断ですので、診断者の主観的判断の介在が避けられない面があります。そこで、病理組織学診断に科学的な裏付けを行うことが大学院を通しての一貫したテーマでした。

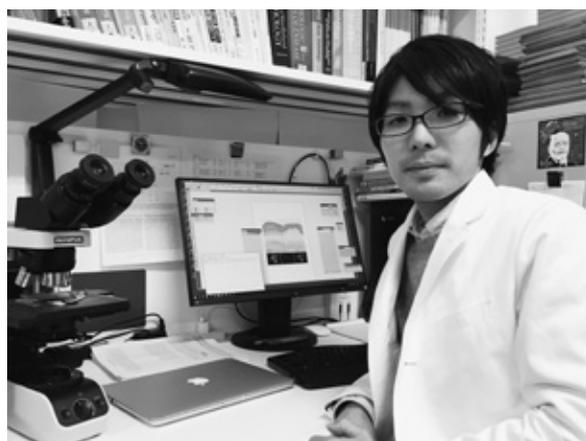
その一環として、特に注目されたのが口腔がん（特に扁平上皮癌）が口腔粘膜内に発生した際に、周囲の粘膜上皮との間に境界を作ることで、この、がん-非がん界面での分子動態を解明し、細胞間の相互作用を明らかにすることを目標にしています。組織標本の免疫組織化学、培養細胞を用いたタンパク質・遺伝子実験のほか、最近では組織標本での質量分析装置を用いたタンパク質の網羅的解析など、大学院在籍中に多角的な研究手法を学ぶことができました。今後も多面的に研究を進めていければと考えています。

在学中には外来移転に伴う歯科病理検査室の移転に始まり、研究室引っ越し、日本臨床口腔病理

学会開催、バーチャルスライドでの学部学生実習の開始など、イベントの多い4年間だったように思います。そのような転換期に研究室の一員として在籍したこともいい思い出です。国内外の学会へも多く参加することができ、観光では行くことが少ない国へ行くことができたこともいい経験でした。忙しいなかでも、熱心にご指導いただきました朔教授はじめ諸先生方のおかげで、2014年には国際口腔病理学会（イスタンブール開催）および日本臨床病理学会（新潟開催）で、それぞれ名誉ある賞を受賞できたことは大学院での研究の励みとなりました。

大学院の4年間、学内外の様々な先生方のご協力のおかげでなんとかやってこられたように思います。2016年度も継続して口腔病理にお世話になる予定ですが、直接の指導をしてくださった朔教授は本年度で定年退職され、来年度はこれまでより大きな転換の年になると予想されます。それでも、まだまだ研究半ばで、病理診断の面でも勉強しなければならないことが山積みですので、大学院での経験を活かしつつ、さらに精進していきたいと思います。

この原稿を書いている時期も非常に天気が荒れていて、やはり気が滅入りますが、大学院4年を終えて憂鬱な冬の気候の地に戻ってきた価値は見出せそうです。



平成27年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	伊藤 崇史 （口腔生命科学）	Implantation of Mesenchymal Stem Cells into the Coronal Pulp of Rat Molars （ラット臼歯冠部歯髄への間葉系幹細胞の移植）
博士（歯学）	日向 剛 （口腔生命科学）	Bioactivity and biomineralization ability of calcium silicate-based pulp-capping materials as evaluated with subcutaneous implantation into rats （ケイ酸カルシウム系覆髄材のラット皮下への移植による生体活性とバイオミネラリゼーション能力の評価）
博士（歯学）	黒澤 美絵 （口腔生命科学）	Streptococcus pyogenes CAMP factor attenuates phagocytic activity of RAW 264.7 cells （Streptococcus pyogenesの産生するCAMP factorはRAW264.7細胞の貪食能を低下させる）
博士（歯学）	村上 智哉 （口腔生命科学）	Isolation and characterization of lymphoid enhancer factor-1 positive deciduous dental pulp stem-like cells after transfection with a piggyBac vector containing LEF1 promoter-driven selection markers （LEF1プロモーターを配したpiggyBacベクターを遺伝子導入した乳歯歯髄細胞を用いた遺伝子工学的手法によるLEF1陽性乳歯歯髄幹細胞様細胞の単離および解析）
博士（歯学）	井田 貴子 （口腔生命科学）	Extracellular Matrix with Low Collagen Cross-links Affects Differentiation of Bone-associate Cells （コラーゲン・クロスリンクが低下した細胞外マトリックスは骨関連細胞の分化に影響を及ぼす）
博士（歯学）	江口 香里 （口腔生命科学）	IGF Binding Protein-3 Suppresses Bone Formation via BMP-2 Signaling （IGF binding protein-3はBMP-2シグナルを介してIGF非依存的に骨形成を抑制する）
博士（歯学）	河村 篤志 （口腔生命科学）	加熱によるデンタルインプラント除去法の有効性検証
博士（歯学）	高嶋 真樹子 （口腔生命科学）	Quantitative evaluation of masseter muscle stiffness in patients with temporomandibular disorders by shear wave elastography （せん断波エラストグラフィを用いた顎関節症患者の咬筋硬さの定量的評価）
博士（歯学）	白井 友恵 （口腔生命科学）	Caries-preventative effect of mouthguards containing a surface pre-reacted glass-ionomer filler （ガラスアイオノマーフィラー含有マウスガードのカリエス抑制効果）
博士（歯学）	新垣 元基 （口腔生命科学）	Significance of Intraoral Elastography in the Evaluation of Muscular Invasion of Early-stage Tongue Carcinoma （舌癌筋層浸潤の評価における超音波エラストグラフィの有用性）
博士（歯学）	中島 麻由佳 （口腔生命科学）	Oral Administration of <i>P. gingivalis</i> Induces Dysbiosis of Gut Microbiota and Impaired Barrier Function Leading to Dissemination of Enterobacteria to the Liver （ <i>P. gingivalis</i> 口腔投与によって腸内細菌叢の攪乱と腸管透過性機能異常が誘導され腸内細菌の肝臓への播種が亢進する）
博士（歯学）	小島 杏里 （口腔生命科学）	Tumor necrosis factor-alpha gene promoter methylation in Japanese adults with chronic periodontitis and rheumatoid arthritis （日本人慢性歯周炎および関節リウマチ罹患成人におけるTNF- α 遺伝子プロモーター領域メチル化の解析）
博士（歯学）	佐藤 知弥子 （口腔生命科学）	歯列に対する自己評価および客観的評価と矯正歯科治療の動機づけとの関連性
博士（歯学）	大倉 麻里子 （口腔生命科学）	Immunohistochemical and gene expression analyses of Prostaglandin I2 synthase, the IP receptor, and TRPV1 following orthodontic force application in rat molars （矯正力を付与されたラット臼歯におけるProstaglandin I2合成酵素、IP受容体およびTRPV1の発現の変動：免疫組織化学的検索および遺伝子発現解析）

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	眞 舘 幸 平 （口腔生命科学）	Morphological Evaluation after Two-Stage Palatoplasty Combined with Hotz's plate: A comparative study between Furlow's and Perko's Methods （二段階口蓋形成法においてFurlow 法を施行した片側性完全唇顎口蓋裂児における顎発育の検討—Perko法との比較—）
博士（歯学）	神 田 知 佳 （口腔生命科学）	Effect of carbonated water on swallowing performance in healthy volunteers （健常被験者において炭酸水刺激が嚥下運動にもたらす効果）
博士（歯学）	酒 井 翔 悟 （口腔生命科学）	Modulation of excitability of trigeminal neurons during electrical stimulation of the superior laryngeal nerve in anesthetized rabbits （麻酔下ウサギにおける上喉頭神経刺激時三叉神経ニューロンの興奮性変調）
博士（歯学）	椎 野 良 隆 （口腔生命科学）	Effect of body posture on involuntary swallow in healthy volunteers （健常被験者において姿勢の違いが不随意性嚥下運動にもたらす影響）
博士（歯学）	高 橋 圭 三 （口腔生命科学）	Immediate Effect of Laryngeal Surface Electrical Stimulation on Swallowing Performance （喉頭部への表面電気刺激がもたらす嚥下機能への即時効果）
博士（歯学）	阿 部 達 也 （口腔生命科学）	Histopathological characterization and proteomic analysis of the interface formed between lateral invasion fronts of oral squamous cell carcinoma/carcinoma in-situ and non-cancerous epithelial zones （口腔扁平上皮癌・上皮内癌の側方浸潤先端と非癌上皮部とが形成する界面の病理組織学的検討とプロテオーム解析）
博士（歯学）	小飯塚 仁 美 （口腔生命科学）	上顎欠損患者の発音時口腔内圧
博士（歯学）	倉 部 華 奈 （口腔生命科学）	顎矯正手術が顎変形症患者のQOLに及ぼす影響
博士（歯学）	齋 藤 直 朗 （口腔生命科学）	骨分化誘導と低酸素処理併用によるラット間葉系細胞の多面的骨誘導能促進効果の検討
博士（歯学）	吉 野 登志也 （口腔生命科学）	External validation of Cox prognostic index for autotransplantation of teeth with complete root formation using pre-protocol group and post-protocol group （前プロトコール群と後プロトコール群を用いた歯根完成歯移植におけるCox予後予測指標の妥当性検証）
博士（歯学）	堀 内 悟 （口腔生命科学）	超音波による舌骨の下顎頭との同時動態評価法の試み —睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置の効果判定を目指して—
博士（歯学）	会 田 生 也 （口腔生命科学）	Peripheral and central control of swallowing initiation in healthy humans （嚥下運動誘発における末梢と中枢の制御）

平成27年度 大学院医歯学総合研究科口腔保健福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

専攻分野の名称	氏名（専攻）	論文名
修士 (口腔保健福祉学)	木村 千亜貴 (口腔生命福祉学)	脳血管障害急性期の口腔衛生管理と摂食機能療法の効果 ～経口摂取の有無別にみた全身状態および口腔内状態の変化～
修士 (口腔保健福祉学)	高橋 明 恵 (口腔生命福祉学)	小学校における昼休みを活用した歯みがき指導の効果
博士 (口腔保健福祉学)	諏訪間 加 奈 (口腔生命福祉学)	自立高齢者におけるアルコール摂取量と歯周組織状態との関係
博士 (口腔保健福祉学)	手 嶋 謡 子 (口腔生命福祉学)	Impact of oral ingestion on oral health condition in dysphagic inpatients (嚥下障害患者において経口摂取が口腔環境に及ぼす影響)
博士 (口腔保健福祉学)	桃 井 麻 未 (口腔生命福祉学)	乳歯う蝕に関するリスク要因およびう蝕予防プログラムの評価
博士 (口腔保健福祉学)	横 塚 あゆ子 (口腔生命福祉学)	要介護高齢者に対する口腔清掃にかかる時間分析と清掃効果 —高齢者介護施設職員および歯科衛生士ボランティアの比較—

